

故郷の人物を知ろう

たかおか

おん こ ち しん
温 故 知 新

童謡「夕日」の作曲家

室崎 ^{きんげつ} 琴月 (1891~1977)

琴月は作曲家・音楽教育家です。高岡市木舟町の綿糸問屋・室崎清七の二男に生まれました。本名は清太郎。2歳の時、子守の不注意で片足が不自由になったせいか、家に籠りがちなおとなしい少年でしたが、音楽の才能に恵まれ、特にハーモニカやオルガンの演奏が得意でした。川原町尋常小学校から旧制高岡中学（現高岡高校）に進学しますが、音楽熱も冷めず、小遣いで密かに買ったバイオリンを毎夜土蔵で練習したといえます。また通学路の古城公園を愛した琴月は、あふれ出る曲想をノートに書き連ねました。そんな琴月は東京の音楽学校への進学を希望しますが、親の猛反対にあいます。1910年の卒業後、勘当同然で上京。3年後、念願の現東京藝術大学音楽学部本科ピアノ

科に入学。卒業後、東京に中央音楽学校を設立、校長となります。

1921年童謡運動の中で作曲した童謡「夕日」（作詞・葛

原しげる）が琴月の代表作です。雑誌に載っていた葛原の詩に感銘を受けた琴月は一気に曲を書き上げ、面識のない葛原を訪ねて熱い思いを伝えて作曲の許可を得たといえます。のち1966年、古城公園に「夕日」の曲碑が、83年には片原町にブロンズ像「ぎんぎんぎらぎら」が造られ、現在でも親しまれています。

1945年戦災で中央音楽学校は焼失、高岡へ帰り、同校の分教場を創設。歌曲・童謡・ピアノ曲などの作曲活動に励む傍ら、多数の子弟や婦人合唱団などへの教育に貢献。また、県内そして全国の小中高校の校歌を多数作曲しました。

（仁ヶ竹主幹）

問合せ先 博物館 TEL 20-1572



室崎琴月